

今年の二百十日は8月31日でした。

立春から数えて210日目から古くから台風の到来する厄日であったようで、今年は迷走台風10号が東北地方に30日に上陸しました。

昔はこの頃に稲が開花、結実する大事な時であったようですが、東白川村では稲穂が黄金色に色づき収穫の時期を迎えようとしています。それだけ地球の温暖化が進んだのかもしれませんが。

地球規模の異常気象や環境の変化を考えると、いつ起こるかわからない内陸型の大地震や局地的な豪雨に対する対策が重要です。熊本県を襲った大地震は記憶に新しいところですが、被災地の行政の方に「何が一番必要だったと思われますか？」という質問をしたところ「住民の皆さんの防災意識の高揚が最も重要だ」とお答えになりました。「自助・共助・公助」の自助・共助です。

防災意識を端的に表すのに『何も持たずに避難所へ行くな』という言葉もあります。本村では8月28日に総合防災訓練を実施していただきました。安否確認を昨年引き続き実施していただいたところ、全村で791世帯のうち606世帯1675人の安否確認をすることができました。また、消火栓の取り扱い訓練や防災備蓄倉庫の点検など真剣に取り組んで頂きましたが、常日頃から危機意識を持っていただくこと、災害発生時の行動パターンを予め家族、地域で共有しておくことなどまだまだやらなければならないことが多いと感じた防災訓練でした。

8月には森林保全や林業振興について考える機会が多くありました。岐阜県揖斐川町で行われた「第6回木曾三川流域自治体サミット」と高知県で開催された「more Trees (モア・トゥリーズ) トリエンナーレ 2016」がそれです。

「第6回木曾三川流域自治体サミット」では、岐阜県立森林文化アカデミー学長・涌井史郎氏が「日本の山を守ることは国土の管理人の仕事を果たしている」とした上で、森林の持つ多面的機能を経済的評価すれば70兆円にも匹敵すると話されました。

また「more Trees (モア・トゥリーズ) トリエンナーレ 2016」高知県主催の協働の森フォーラムでは、世界的な建築家である隈研吾氏が「人が森を助ける・森が人を助ける」と題して、こちらも「森の持つ力」について話されました。

お二人の話から、東白川村の山の価値についてもっと我々も自信を持ち、強く情報発信する必要性と森林を守り育て活用する事業に以前にも増して力を傾注する必要性を感じております。

平成28年9月